

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

2011年3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになった皆様にお悔やみを申し上げますとともに、引き続き大変厳しい状況におられる被災地の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

## P2 「東日本大震災の当社への影響について」

- ・ リコーグループでは、震災直後に社長を責任者とする震災対策本部を設け、現地の復旧支援、義援金のご提供を始め、お客様の事業継続のご支援など様々な活動を行なってまいりました。
- ・ リコーグループでは、数年前から震災に備えたBCP(事業継続計画)を策定していたため、今回の震災においても機動的に動くことができたと認識しています。
- ・ 支援の例としては、被災地で活用できる製品としてGPS機能・防水機能のついたデジタルカメラの提供などを実施しました。また、リコーグループの持つ物流システムを活用して支援物資の配送の支援なども行っております。
- ・ 今後は、復旧支援活動にとどまらず、地域の振興支援にも事業として貢献していく方向で様々な施策を検討しています。
- ・ リコーグループ自身は、今回の震災において、当該地域に生産拠点が4箇所あったほか、研究拠点、販売・サービス拠点などがあり、それぞれ影響を受けました。
- ・ 生産拠点は、4月中旬までにほぼ震災前の状態に復旧することができました。購買している部品などで一部不確実な要素が残っておりますが、当面の生産への大きな問題はないものと見ております。
- ・ 電力供給の面でもはっきりと読めない状況が続いていますが、25%節電に向けた活動にリコーグループでも取り組んでまいります。

## P3 「2011年3月期(2010年度)決算 <概略>」

- ・ 2011年3月期の業績は、第4四半期に震災の影響があり、前回公表していた通期営業利益850億円という見通しには、残念ながら届きませんでした。
- ・ 震災の影響によって、当該地域だけでなく、その他の地域でも販売活動が積極的にできなくなったことやお客様の投資意欲の減退などがあり、3月の販売は大きな影響を受けました。
- ・ その結果、通期営業利益は前年比で8%減、当社株主に帰属する当期純利益は、前年比29%減となりました。

- ・ 一方で、2011年3月期は、カラーMFPを中心に新製品を投入いたしました。震災の影響があったため業績への効果は限定的でしたが、競争力をかなり強化できました。
- ・ MDS(マネージド・キュメント・サービス)、ITサービス等の新規分野も順調に伸びてきております。
- ・ 継続的な構造改革活動を実施し、販管費、設備投資等の抑制も進めました。
- ・ 2012年3月期(2011年度)は、米国や新興国を中心に海外での事業成長を見込んでいます。加えて、新規事業の拡大も期待しています。また、2012年3月期は構造改革を更にもう1歩踏み込んで進めていく計画です。
- ・ 2012年3月期は、震災影響も加味した上で、営業利益は前年比16%増、純利益は前年比47%増という見通しを立てております。
- ・ 配当金は、2011年3月期は計画していた金額にて支払う予定としております。2012年3月期についても、同額の配当金の計画としています。

#### P4 「2011年3月期 業績」

- ・ 2011年3月期は残念ながら減収減益となりました。
- ・ 売上高は1兆9,420億円で前期比3.7%減となりました。円高の影響を除くと、1.9%増となります。
- ・ 前回見通しと比べると、国内は震災の影響で大きく下回りました。海外は、新製品投入を行い市場のシェアは若干上昇しましたが、市場の回復がまだまだ緩やかということと、競争激化の影響もあって、高い目標をクリアするにはいたりませんでした。
- ・ 売上総利益は、高付加価値製品への販売のシフトや、MDS・ITサービスの拡大、継続的なコストダウン等はあったものの、売上高の減少、円高影響などによって減益となりました。
- ・ 販管費は、経費の削減、円高の影響等で前年比264億円減少しておりますが、販管費比率は37.6%と前年とほとんど同じ水準にとどまりました。
- ・ 結果、営業利益は601億円で、残念ながら前年比8.8%の減益となりました。

#### P5 「2011年3月期 営業利益 :前年同期比増減分析」

- ・ 販売増&利益率改善で前年比419億円の増益要因となりました。しかし、前回見通しでは、597億円としておりましたので、震災影響などによって、見通しを下回ることになりました。
- ・ 製品原価低減で、70億円の前年比増益となりましたが、前回見通しでは、90億円の増益としておりましたので、こちらも震災影響などにより若干下回りました。
- ・ 研究開発費はおおむね想定通りでした。
- ・ その他の経費は、前年比で50億円の経費増加となりましたが、前回見通しでは、98億円の増加としておりましたので、前回見通しよりも経費の圧縮ができました。
- ・ 為替影響はネットで394億円の減益要因となっております。

- ・ 加えて、震災影響によって、営業利益で94億円の減益要因となりました。これは、直接的に算出できる影響額としております。例えば、製品・消耗品販売で直接的に影響を受けた金額や、損壊した設備などの修繕費、除却費などが含まれています。
- ・ 結果として、営業利益では前年比58億円の減益になりました。

#### P6 「2011年3月期業績 補足：四半期推移」

- ・ 営業利益率、総利益率、販管費率などの指標の四半期推移のグラフを示しています。
- ・ 計画では、第4四半期に各指標を大きく改善させる計画としておりましたが、震災の影響などにより、残念ながら逆に低下する結果となりました。
- ・ 一方で、販管費の金額はコントロールできております。
- ・ 第4四半期、売上高伸び率が震災影響等によりマイナス1.9%となったことの影響は大きく、目指していた指標の改善も計画未達となりました。

#### P7 「2011年3月期 分野別売上高」

- ・ 地域別売上高の状況について簡単に紹介します。
- ・ 日本は、第3四半期までは回復基調で推移していましたが、震災影響によって3月の売上が大きく落ち込みました。結果、年度では前年比若干のマイナスとなりました。
- ・ 米州は、為替影響を除く売上伸び率で、第2四半期から前年同期比でプラスに転じており、上向きになってきています。
- ・ 欧州は、緩やかながら、着実に市場の回復が続いているという状況です。国や地域によっていいところと悪いところがまだらな状況ですが、全体ではなだらかに回復してきています。
- ・ その他地域(アジアパシフィック地域)は引き継ぎ、高い成長を継続しています。

#### P8 「2011年3月期 連結セグメント情報：事業別(1) 画像&ソリューション分野」

- ・ 画像&ソリューション分野の売上は、前年比マイナス4.3%の減収となりました。為替影響を除くと1.8%の増収となります。
- ・ 画像ソリューションでは、前年比でマイナス5.7%となりましたが、為替の影響を除くと、プラス0.8%となります。
- ・ 国内はハード・ノンハードとも減収になりましたが、海外は、緩やかな回復を続けており、ハード・ノンハードともども堅調に伸びております。
- ・ ネットワークシステムソリューションは、国内売上が減少となりましたが、海外は、MDS・ITサービスなどがかなり伸びてきております。
- ・ 分野の営業利益は、前年比減益となりましたが、カラー機や高付加価値製品の販売増加や、ネ

ットワークシステムソリューションのサービス事業が伸びたことによって、利益率は前年と同水準を維持しました。

- ・ 営業利益を四半期別で見ると、震災影響により第4四半期に大きく減少しております。

#### **P9 「【参考】画像&ソリューション分野 補足 :四半期推移」**

- ・ ハードウェアとノンハードの伸び率については、第4四半期にハードを大きく伸ばそうと計画していましたが、震災の影響などで逆に低下いたしました。
- ・ 現時点ではノンハードには大きな影響は出ておりませんが、稼働台数を増やしていくことが引き続き課題になると考えています。

#### **P10 「2011年3月期 主な新製品・サービス(画像&ソリューション分野)」**

- ・ オフィス向けのカラーMFPで多くの新製品を投入し、ラインナップを充実させました。主に2012年3月期業績への寄与を期待しています。
- ・ 新規事業として、プロジェクションシステムで製品投入を行いました。また、ユニファイドコミュニケーションシステム事業へ参入いたしました。これからは、紙や電子情報だけではなく、映像によるコミュニケーションにも力を入れていきます。今後非常に期待しています。

#### **P11 「【参考】2011年3月期 トピックス」**

- ・ プロダクションプリンティング事業においてハイデルベルグ社と戦略的な協業を発表いたしました。
- ・ リコープロダクションプリントソリューションズという会社を設立しました。これはInfoPrint Solutionsを改組し、プロダクションプリンティング事業を更に拡大しようという狙いで行ったものです。
- ・ エコソリューション事業参入を発表いたしました。第1弾の商品としてオフィス向けのLED照明を予定しております。
- ・ 設備投資においては、リコーテクノロジーセンターに新棟を建設しました。設計・開発部隊を集約し、設計・開発の効率化を図っています。
- ・ CSRの観点では、様々な評価をいただきました。

#### **P12 「2011年3月期 連結セグメント情報 :事業別(2) 産業分野」**

- ・ 産業分野は、営業利益率は0.9%とまだ高くはありませんが、前年度の赤字から、黒字に転換することができました。

- ・ 四半期別の数字をご覧いただくと分かるように、底を打ったと認識しており、今後、さらに伸ばしていきたいと考えております。

#### **P13 「2011年3月期 連結セグメント情報：事業別(3) その他分野」**

- ・ その他分野では残念ながら大きく赤字となりました。
- ・ 2012年3月期では、当分野の収益改善を進めてまいります。

#### **P14 「2011年3月期 連結セグメント情報：所在地別(1) 日本、米州」**

- ・ 所在地別セグメントで、日本は、第4四半期の営業利益が大きく減少しておりますが、ここには震災影響などが含まれており、一過性のものであると考えております。
- ・ 米州は、第4四半期に徐々に黒字に転換することができました。通期では36億円の赤字になっておりますが、2012年3月期は市場拡大とともに利益拡大を狙います。

#### **P15 「2011年3月期 連結セグメント情報：所在地別(2) 欧州、その他」**

- ・ 欧州は引き続き順調ですが、利益の伸びをもう少し加速させていきたいと考え、活動しております。
- ・ その他地域は、地域内の売上をもっと伸ばそうということで、かなり積極的な展開を各地域で行っています。

#### **P16 「連結貸借対照表<2011年3月末>」**

- ・ 総資産は、2兆2,623億円となり、前期末と比べて1,215億円の減少となりました。これは主に負債の返済を手元資金で進めたことによります。
- ・ 有利子負債は6,304億円で、前期末比で540億円の減少となりました。これは、CBの早期償還とIKON社が持っていた社債の早期償還などによります。
- ・ 棚卸資産が17億増加しております。もう少し圧縮する計画でしたが、震災の影響を踏まえ、予定より少し多めに在庫を持つことにいたしました。

#### **P17 「【参考】連結貸借対照表：主要指標推移」**

- ・ 棚卸資産回転期間は、1.78ヶ月となり、前期末の1.70ヶ月よりは少し悪化しています。四半期別に見ると、第1四半期は1.85、第2四半期が1.93、第3四半期で1.96と回転期間が

徐々に長くなっておりました。それを計画通り第4四半期に改善したのですが、震災の影響も踏まえて、計画ほどは在庫を絞らずに1.78ヶ月までの改善にとどめたものです。

- ・ 総資産回転率、株主総資本比率、デットエクイティレシオなどは、それぞれ若干改善しております。

#### P18「連結キャッシュフロー計算書<12カ月分>」

- ・ 純利益と減価償却費を合わせた内部留保は、1,161億円ということで前年から減少しましたが、運転資金のコントロールを引き続き実施しており、大きな問題はないレベルであると認識しております。
- ・ 営業キャッシュフローが1,300億円、投資活動のキャッシュフローがマイナス920億円となり、フリーキャッシュフローは380億円となりました。
- ・ 四半期別フリーキャッシュフローのグラフの通り、この2年は継続的にフリーキャッシュフローを生み出す体質になっていると認識しております。

#### P20「2012年3月期 通期 業績見通し」

- ・ 売上高は、国内が9,000億円、海外が1兆1,900億で、合わせて2兆900億円といたしました。前年比7.6%の増収を計画しております。
- ・ 営業利益は700億円ということで、前年比16.3%の増益を計画しております。
- ・ 税引前利益、当期純利益はそれぞれ前年比38.8%、47.6%の増益を見込みます。
- ・ 売上高については、海外を中心に基盤事業の市場回復を見込むことと、新製品による競争力強化により成長させる予定です。
- ・ 加えて、新規事業分野を成長させていきます。新規分野には、MDS・ITサービス・プロダクションプリンティングなどが含まれておりますが、参入を発表したばかりの新規ビジネスについてはまだ見通しには含めておりません。
- ・ 利益につきましては、これまで進めておりますCRGP(Corporate Restructuring & Growth Project)活動を新たなステージに進めます。CRGPでは、事業活動を変えていこうとしています。例えば、従来ビジネスは投入する人員を減らし、その減らした分の人員を新しいビジネスへ振り向けることを進めております。
- ・ 今年度のCRGPでは、リソースの最適配分を更に進めていきたいと考えております。そのための構造改革費用を200億円計上し、今年度の営業利益の見通しに含めております。これは効果と先行する費用のネットとなっており、主に上期に費用が発生し、下期は利益効果が発現するという構図を見込んでおります。
- ・ また、今年度も震災による影響として、100億円を営業利益の見通しの中で見込んでおります。
- ・ 震災については、これから復旧から復興の段階に進んでまいりますが、リコーグループとしても、

それに何とかして貢献していきたいと考えております。現在、東北地域でリサイクル事業の拠点を新たに1拠点開設して、リコーグループにとっての新しいビジネスの拡大とともに、地域での雇用創出という形での貢献を検討しております。

- ・ 2012年3月期の設備投資計画については、前年度に開発拠点での新棟建設や重合トナー工場などの大きな投資が終わりましたが、今年度は新規事業への投資を計画しています。但し、減価償却費との見合いの中で進めたいと考えています。
- ・ 研究開発費につきましては、研究開発活動の効率を更に上げてまいります。中長期的に基盤事業や新規事業の新製品開発も進めてまいります。売上高の5~6%の範囲の中で研究開発投資を行ってまいります。

#### **P21 「2012年3月期 通期 営業利益見通し :前年度比増減分析」**

- ・ 販売増で売上総利益増加を440億円見込んでおります。これは基盤事業と新規ビジネスの両方の増加によります。
- ・ 製品原価低減では50億円を見込みます。
- ・ 研究開発費は、新規事業の開発などを進めるため前年比で92億円の増加となります。
- ・ 為替影響は、総利益増加分を139億円、販管費増加分を49億円見込んでおり、ネットで90億円の増益影響を見込んでいます。
- ・ また、構造改革費用として200億円、震災影響として100億円を減益要因として見込んでおります。

#### **P22 「2012年3月期 通期 分野別売上高見通し」**

- ・ 売上の内訳となっております。内容については別途ご確認ください。

#### **P23 「連結財務指標推移(年度別)」**

- ・ 配当金については、2011年3月期はこれまで申し上げておりました、年間33円を維持する予定です。
- ・ 2012年3月期の配当金も現時点では、前年と同額の年間33円を計画しています。
- ・ まだ不確実な要素などがありますが、キャッシュの創出状況、投資の状況も踏まえながら、自社株買いなども含めた還元策も適宜検討していきたいと考えています。

以 上